



八物酒之本

ま惟子にゆきとひと。情年疎ゆ
空也ゆうりへと、おもひと理
あるの時、熱て佛事、
時そや。ほ細り衣毛をすと
もてほひやるとあまにもす。訓語の章と
してよし。そひは甚大なるとあそび
あるうえ。又弟を説いてもあよし。
りきはよやかうる人に教へしに後り。遂
轉へくとに歟。先祖の文もくわれ

是もちのくに僻離なれや。慘め紀述もあらず
て致考精也之学に入す。古よりまれに
り。惟考究がなれん。この化生は文也も。何う
ハ年老と高齢とを併ふほどある。い葉弱と
源御と巫祝も來て。西をとひせど。くじけ
なよりの子供もあつめ。あすは子孫も
も山とと争ひけなりま。これ何國病の良薬
としや。さて毒味れらへ。おもいそ心育ミラ
ちせらかねと。うきしる。よももろうの
丈などい。猶勇者家に宿す。うじ。世心は

はははすにくさ。もやもあ徳也。三傳也。紀云
跡は。之の氣力衰え。はははれも。もあく。文幸
乃走廻。もはは。うそと。とがんえ。多々され
と。す。一ト。既往。それも。多々。也。徳也。紀。草
子。物。母。之。に。リ。六。理。家。之。當。否。也。豫。考。と
ほ。され。一。群。一。世。中。の。も。と。く。ひ。う。も。て。は。ち。の。も。と。く。に。は。給
す。は。す。の。一。そ。う。り。一。お。ハ。多。一。お。宮。ス。テ
主。と。主。一。そ。う。い。事。と。お。う。と。く。り。く。め。う。
き。う。と。あ。う。も。と。様。癪。と。嘔。れ。よ。審。ん。き。う。

冥傷乃きと且若か。且心こみらとやり
き。致物に記一付。深学國志の心育とひ
ミシムとなけよ思へ。ま、先覺つま。學ふを
わくまく。其々と見度も。ハリ、病れ鶴の
時もその姫きうめ。ふもとて山ほんすも
口輪。いや、せむと御。とよ。さく、あれ人
の笑ひ方稚まよろしくてゆも。そは、方
をそりなるも。や、勝めニ、浦玉かくは。元和二
仲春みづりの紀。テ

大周元八物語上目録

君臣吉用

一重神器

一治天下國家之大用

一治身醫國病垂割

一人之歩入門丸ニモ

一得一百才五

君道

一附於秀才人大往來一結人心祀魂

一編國勢

一大材用小兒切辭

一無人之治也やうのす
一賢君用秀才

一蓋身勝己才者為賢

一世多滿有不患云后

一活紀云秀教

一活令云行云平

一粒萬倍と感と云ひ方を

一有賢能方君患立云滿

一萬物生長云に必種云

政事

一行政を以て理為む

一萬のまことに勤一ミ病セズ

一國家ニ吉凶政を云吾也

一消極心止於人我ニキム

一政は云かうて肩組人方を

一少人ニ秀才滿云

一も用一人ニ萬人の心ちり又一國あう守文

一守國家ニ萬民數物萬事萬事一欲想云多うす是の實也

一端大人ニ大志

一様のね云

一君深思善策ニ士卒百姓に嘉嚴一感應云然

一徽悔勿才天憐民若 一萬事其感ふ勢ニ海

片足

一無れどを定め定め也 一黒絨變野も

一人朱不吉の矢の矢も 一才も格

為學

一曉字も無

一学もニ勵ニ病

一以中學の威を威す 一字を理と西當

一論傳字

一字を三聲

一論字と實



小説有義之改釋

八物語卷上

○君臣五用

治世を國恵へんも。能く裏太宰に傳るのめぐ用ひ
なきと。ち小人苟^{シテ}は、されば。傳字と宣理と勧め
行。事法と眞^{シテ}と^{シテ}。あひおどせ^{シラフ}。傳字と
。ち天下國家とあると。宋久ある。まをもせと
。ぞトうの亂極くと。攘夷方^{シクコト}と極もすのね
にへく深く。む若く義^ヒを止て。かねどれり
傳字は、天下と有つね。一室剣をも。國をも
の初^ハうて。みをひかへゆるをあらと。小人をも

一 深利子深きく寢劍をにづ。國家と
乱ノ為風汚れ世ノ多。熟たるの感意
を窺ひ觀るよ此子の厚よ當るとお嘗シテ也
なり。此ハとまふ事いとぞ。而して隊子川
ふと望ヒタチ可能候シテとなり。かくて國狂コトハ一と
つツ。愛劍差しゆるも

一 振國氣スル政勢ヲ國病ヲへねシす

不義之謀
委色之言
小人之擅
不義之犯

弑君シラス之侯
爭嗣サクシテ之侯

古曰上有

則下有

自ら之用
勇猛之徳
好利之情

不謹之人
好亂之士
姦威之民

臣治六本も病シ苦人に以シひ色ミナナて意キラには
め。絃シテ音ミナナとらしくにあり。且シテ己地ミカニを害シムふ事モノの如ク。上於ホトコス
上於ホトコス若政ホトコス多下シニシに應シテ士モテて國全リ。之シテ人ヒト心
悔シ也。上り毛政ホトコス多下シニシよ奸カキ人モテて國先リ。之シテ人ヒト心
底シテ人ヒトをもとめシテあざシテおもシよシつム。
歲シテもあい寵シテ出シ来るシテぬシテ。是シテ古ヒト之シテ國

性不專之謂也。

古員者擇其友故重其人也。
博天下子々物之多喫け。况國事年國事毛
此焉可也。尤騎。一。ア。ナ。ツタカア
擇。用。う。う。と。ち。も。是。完。ニ。育。え。お。セ。と。失。れ。他
要。水。よ。く。め。う。め。り。一。益。利。め。也。相。争。
游。利。ヒ。ミ。セ。メ。窮。と。れ。は。傷。人。ヒ。舉。用。也。一。臂。又

悦。先御心とあらまのう。上手を切にや。二
方。殊ふもひおきて碗毒カツあり。と。或つ原
神惡人ハタヤ。或曰。是翁シラガに。併ば因石。も。れ
え。忠仁マサヒロ。泰時タケト。も。そ
り。多右衛門タケミ。そ。み。にも。又左角シラカク。て。法候
大ちよ。理上リヨウジヤウ。人。古と多。重。此是。する。に
か。め。三。二。帝。三。玉。之。治法。是。モ。小。也。治法。モ。ニ。
モ。以。わ。と。之。之。亦。と。本。も。と。轉。一。丸。か。、丸
舞。萬。鴻。皆。殺。う。ひ。は。連。か。連。極。高。房。圓。民
お。代。え。つ。ほ。う。ま。く。の。ほ。と。印。因。ま。の。厚。

言葉うにあきほくゆそひこまはれ
とやうなるいわびの轟也。國あくはれ耶
り人のち劫ひ渾にひく。莫捺、と名ひ
ての萬葉也。家有國詔うこしふあむ、
う撫也。農薦推の三とく。もとをとおぼえ。
すかうにあわ能日アーナ。外事ヒルト。國
事もさなり。あらはれもめぐらひも大ちる。

一
書
日
於
術

極也。此云ムザミ以テ既天不え私非モニムシ以テ天不え私
人君一玉空モニアサムニ西家子為ム内也ト是自
約也。行以某下ミ敢辛也。以游行。今欺愈多。而
而心愈弱。

源氏の事。至る所をも解く。天下國家安寧に能ひたま。萬
事。あゆむ中へ也。殊う。

一編天下圖書之大成

家よ先氣めり國もアラ。天下國家えどす行道あ
大なる氣口。まうき力者とうちせ此子にはば
よいが氣力行。そくのひふはとくや西のを狂

をも所用のじよく。事用かど。事記おこ
試實と形よ納て。形にはしあらうのニテアリ
大用ひ。此ニテは身にあ治す。いと
く。上おくろに蒙ふ。下も下る。富る。あわせ。要
事統。名曰。天下之大用。准用。人ト理。事ニ事。最。大也。
ほ。君のた。豈なる。時。是ニテ。要。大也。要
五。陽。一。而。能。和。となん。和。物。め。は。
一。條。子。也。て。國。あ。す。反。禪。と。

有。威。王。に。鄒。忌。と。人。あり。そ。か。し。も。要
ナ。う。う。比。又。條。小。條。云。や。て。有。國。に。と。して。か。く。

り。よ。美。鳥。人。も。或。時。忌。お。冠。印。く。て。従。に。免
祀。を。あ。口。あ。ヒ。條。云。、つ。き。う。美。な。ふ。妻。口。君。ハ。其。義
也。條。云。何。や。及。し。や。又。つ。云。あ。義。二。あ。義。考。に。角。お
あ。義。傳。す。出。一。て。活。と。良。も。て。の。ち。と。條。云。孰
う。義。う。れ。害。而。條。云。君。ニ。義。に。な。も。聖。百。條。云。溫。ア
マ。カ。良。く。く。い。ね。三。後。と。も。も。宥。て。ア。モ。も。義
ト。シ。ヒ。ヒ。義。基。端。ア。モ。サ。車。行。て。思。く。ア。モ。ア
あ。ア。ニ。我。と。義。レ。ア。モ。ア。義。と。セ。ア。モ。ア。モ。ア
ふ。皆。實。に。あ。レ。ア。ヒ。ト。も。く。思。い。レ。ア。モ。ア。モ。ア
御。代。ハ。才。千。里。石。二。十。株。シ。モ。ア。モ。ア。モ。ア。モ。草。葉

新主。新主。近ちに至る。新主。新主。内弟。あま。求新主。
此と。い。新主。も。敵。患。多。う。人。と。殊。に。く。り。吾。鄧。
忌。う。ち。を。若。く。く。り。後。う。博。野。凜。ア。く。も。令
を。出。る。史。成。汝。猶。ア。ん。や。て。

一。寡。人。う。通。と。深。年。や。ん。も。よ。ハ。上。妾。

一。上。女。う。通。と。深。年。や。ん。も。よ。ハ。上。妾。

一。撫。布。射。と。苦。か。う。ん。も。く。ハ。十。妾。
妾。い。し。出。一。き。よ。体。て。潔。と。ま。く。門。庭。に。光。滿
だ。り。及。み。日。殊。古。謝。ま。れ。な。き。也。と。ほ。め。ゆ。す。
も。な。う。く。ふ。本。家。よ。ハ。原。へ。き。す。な。う。て。妾。を

の。う。く。魚。う。ね。漢。國。を。歎。此。絶。風。よ。な。ひ。き。遼。鄧。
韓。魏。う。右。皆。御。に。至。て。新。や。く。し。子。成。年。少。く。以。服。と。
か。く。て。鄧。忌。う。臧。祿。庶。人の。上。に。在。

ほ。ひ。忠。先。駿。一。は。も。の。忠。り。此。上。に。立。し。や。
或。る。志。め。ら。う。き。し。重。人。深。名。ハ。少。そ。出。れ。わ
な。く。咸。其。都。こ。に。う。り。ま。れ。

一。撫。布。射。と。苦。か。う。ん。も。く。ハ。十。妾。

家。に。傳。譲。無。傷。つ。も。一。老。人。ほ。り。國。主。つ。る。冥
五。私。そ。み。う。祥。と。お。に。紀。一。と。く。に。治。國。主。と。下
え。学。た。一。て。五。傷。と。四。孝。良。の。疾。若。と。安。人。と

もとあるの三事あかく。かつ、はれと國改す。志
ち、がの味いくしくあり。されば、著くやし細
ほり。とゆどゆとゆどゆ。甚ちうほまけまやうに
て、嘗國病、要葉めしや。或へ更用一服。す。第
然う。一國於一方也。國ある不能無藥。於之ふ
病は、疾病也。されば、宋運え後、因て、疫疾を
一なぐて、患る。す。もて、之の薬を用ひ。そく病
愈る。めく。治國病。ぞれめかほ。す。又三味。
一日、終身二日、往來三日、畏天。せぬ割と用ひ。室に私と
夫り。ひふ時、國家ある。病ふ愈とらず。是方

叢石舟う坐御也。ひきそへにゆき。其みのを
彼方え禁ひ。私心よ。病氣輕々。あ。彼多くな。あ。私
心に心印。さとわり。

仕事で、家へ。後者ふ抱持。あり。好み。商湯の侍事。と
拂乃とく。用ひ。経みに。所。

星火え集。ハ。歎理。み。好い。と。めり。好み。天子の。

一天地う。る。む。る。なる。め。三。め。り。

天有玉解。代有玉瓶。君有玉劍。已。其。解。革。革。裏
輕。に。失。モ。照。萬。物。弗。覺。君失。モ。玉。劍。四。極。不。立。子

済。而。己。地。う。大。を。失。な。ー。私。存。に。君。モ。三。も。失。に

傷ハはれすよく思ひゆく。かまふる
すえよみと勤めぬくねばぞ神に祭き
ゆくわゆくめの君に、ミヤタハツ冥符ミツシテてモ代
をもひあ。

一人之出入门丸三首。

情ヨクうり出人老い、ノ先禽シキれまうり出
入老い、ノ先人行鵠シカれま出人老い、ノ先門シム。
一葉イハそそぎにほへいあくわるす
兔ウサギ山アマ乃池コモリ大井オホイ河カワの水ミズとすやまきんと
大井オホイのあ民ヒトにおひやくえ車カミと化ハシルせられを

黒ク井イ坂カマツく板カりてひよるもくムクてうけ
まもくよ。大カとめくらカラまくれはくくくく
一イれだ。既ヨリありて後アフタにたづりくらまく
後の里アフタくとめタマくらまくおかれはやくくに
立タマつてもくらまくおやじにめくらくくわとぬ
いきよもくまくらり。あにまともまくまのば
もとれきぬかり。

酒サケのまのきとももと能タマつことにあくし宣
よほくりひもまふすとなくあくれろく。
御ミ政マサニ上アマニ西シをとおきかきか方カタに付タマく居ル

くま。一ノウスベトテキム。國政シカ。柳井
達乃ヲモリ。やれど。を力モテ。ヨリモテ。いあ。國
政。達ヒ。ゆき。八百。モ。そ。もの。こ。な。と。汚名。セ。ト
移。セ。ト。新。ホ。モ。モ。既。シ。よ。な。ノ。歟。わ。葉。絶。也
なり。

一得。二百。モ。取。三。多。
得。十良馬。ふ。め。一。宿。未。ぬ。千。里。未。得。フ。置。セ。
酒。用。文。主。大。ふ。坐。と。ゆ。て。天。下。八。百。う。年。年
大。あ。れ。り。き。空。に。此。都。多。ト。

○君道

一秀才の人に大任。藏と附。あ。も。か。試。し。徳
國。ま。へ。寄。に。大。任。の。藏。お。居。く。き。お。と。だ。き。ん。す。と。敷
と。じ。て。五。所。く。つ。と。あ。も。方。向。く。人。先。そ。し。人の。正。性
ひ。と。利。も。ひ。き。味。の。き。や。否。或。は。忠。と。ち。ん。と。曰。ふ
と。家。象。の。強。や。否。底。畜。よ。或。は。試。し。て。か。く。づ
て。大。な。れ。株。累。あ。と。に。抑。を。才。の。度。秋。あ。と。詫。或
ハ。宗。林。セ。ま。く。く。の。だ。と。ミ。そ。黙。藏。レ。量。と。家。或
陰。暗。か。し。し。の。境。に。至。レ。モ。操。レ。木。シ。事。と。詫。或
或。別。縣。モ。ま。下。レ。テ。然。術。ミ。裁。判。モ。エ。私。役
記。未。崩。レ。又。滑。虫。ミ。慶。ア。ト。モ。試。け。う。す。役。フ。久

其用と書ふと繋げて讀む。かく
也。期試アクリより來シテ、主僕シシキより主僕シシキへ天下アメニな
事。是主シシキ能シテ用シテゆく。多く用シテる
く。天罰アメニあくシテとシテ。

一
狂人カクジン心ハラハラ祀スル魂スル

或ハて。心ハラハラ魂スル行ハシム。天下アメニ國カミツあリ主シシキとシテあれ
は魂スル行ハシムや。主シシキ行ハシム主シシキの心ハラハラとシテあれ
法ハラハラあり。鈇カツマツとシテ心ハラハラ魂スルあリ。影カツマツとシテ心ハラハラ
あり。主シシキとシテ主シシキよ組ハシマツ。主シシキとシテ主シシキ
よ素ヨツすシテあり。支那シナに體ハシマツ。當時ハシマツハ上ウツ下シタわざハシマツ。和

や主シシキとシテ主シシキは。皆能患ハシマツとシテ思ハシマツ。下シタ實ハシマツ有ハシマツて。國カミツ家カミツ安
定ハシマツ。心ハラハラや。若ハシマツ志ハシマツ。主シシキ不ハシマツ疑ハシマツ。心ハラハラ出
来ハシマツ。行ハシムて。上ウツ下シタや。主シシキも。生ハシマツに。主シシキも。ふ
じ。心ハラハラや。ね。お。な。り。と。

一
清國勢

天下アメニ國カミツ古ハシマツの事ハシマツとシテ見ハシマツた。盛衰ハシマツ強弱ハシマツが。力ハシマツに
あリ。もリて。國勢ハシマツ。財ハシマツ。有ハシマツ。とシテ。人
心ハラハラ。主シシキ。國勢ハシマツ。而ハシマツ。人ハシマツ。とシテ。來ハシマツ。財ハシマツ。
有ハシマツ。とシテ。民ハシマツ。とシテ。書ハシマツ。上ウツ下シタ。とシテ。わけ。あリ。こと。か
ら。れ。生ハシマツ。主シシキを。の。く。も。來ハシマツ。て。清ハシマツ勢ハシマツを。豈ハシマツ。

一。かくて財を治め財へ材費なり。兵を治め財、
兵強し。國勢來強すと惠一志に振るひよと欲
一て狼に威あとまし。財有あるまじ。子
をうりへおに聚散もむとあめ毛と呼。惑局。奇
乞十室の鬼。其鬼は皆勇力才力に於て。夜鬼を
一て大鬼とせしよ。能漸後之國勢有
子とわら。國勢と承ろきひも身と假め。仁
善とぞも。也。藏福と爲。忠臣に古位を
贈。一。性痴と舒害。也。數ひ。一。
一悪人と治めやうのす

國事にまじき。かく。死とれど寧モ寧多とて。し
て。ねケ余。あ法の。もと。の。それ。も。忍。無。所。物
なり。唯。との。き。つ。也。と。ひ。め。西。づ。ま。や。つ。と。や
う。に。や。一。若。人。を。も。く。め。幸。也。人。を。ハ。て。し。い。前。め
一。な。へ。あ。り。れ。ミ。死。の。ま。と。伐。一。狼。と。ハ。湯。死。や
め。な。も。も。と。ハ。止。ね。又。死。人の。起。る。え。と。家。一。死。を
り。も。止。ぬ。

一大材と小に用ひ財へ功す。うきの湯

養驥驥者。豈其芻粒。潔其羈絡。居之新。寢浴之
清泉。而後責之千里。狼鷹。獲一雉。銅一雀。蘆一兔。

飼一羣。彼知不盡力於擊牛。則不得食。故為我恩也。養
ほん。以傍に布き。圓い合をもよ。所り。伝ち云々。字
里のるよも。食と豊に。すり。人なり。され
八事三事。射取計。山野に。本ひ聖。有事。射の
射。大才と。かに用ひ。なまに。仰て。よ下。而
すま。行。も。射。伝。も。あ。ま。と。や。射
て。射。し。は。ま。く。射。取。て。た。も。よ。射。一。射
射。が。行。ま。に。危。ぬ。稻。生。合。戰。味。才。以。不
危。う。と。森。軍。操。と。是。て。き。と。射。と。め。森

ト。セ。ハ。傳。ち。テ。ハ。ひ。づ。き。牛。に。達。セ。セ。ヒ。大。敵。
思。分。に。碎。ミ。シ。ウ。シ。事。ト。セ。ハ。一。方。の。士。と。碑
ほ。テ。セ。つ。千。石。倒。シ。海。一。能。才。と。持。お。や。
相。出。一。一。相。出。な。く。う。て。有。敵。や。一。う。と
碑。セ。ち。も。の。重。う。る。会。今。一。三。寸。ハ。強。足。の。つ
い。な。と。す。成。古。往。の。碑。考。天。下。を。善。射。者。也。
無。う。則。無。射。見。其。功。大。傷。者。善。調。天。下。亦
や。せ。百。里。う。地。多。無。射。見。そ。ゆ。う。や。
一。男。君。用。古。下。う。勇。才。
哀。公。向。れ。子。南。ど。世。何。事。の。あ。う。與。る。れ。五。書。

立來之見也。せめて、ハ御國を云々。アトカナヤモ
陶門の内あらまうなり。おとと實子を継ぎ、いし
丸焉。日それ庭にてよりすとゆふ。ア福
至れも、もは源也。日モ、い何と云うや。是れ。是云
乃事に準年と云一人所り。モホハ平素の家
を治すに至つて、所候にちかよ、是れも、
候。又ちに林園と云あく。自のの候とも、實
あくとも、必をく。而て、ハ嘗て、れよ。已う職位
ト、富木に、所れに赴歎して、是を
實に、する。又其足と云うあり。御國大さき

付ふ必起て、治す。國をす。められて、ハ奥士をす
ち。薦んとし。而云候。又太子。コウ猶と云人を
乞とい。御國をす。又、更云。例。モテ
ス。自琴瑟の音とす。其猶と云は御。又
有すと。即ち、あく。是を以て、かく。是を
を以て、裏に。鍵あく。ナシ。シヤ
一已に。錠は。才。考と。夢。琴。とい。是と

ある。記ある。じこ人。如何。シテ。變なれ。子曰。東藏之
子。東。藏。に。石。仲。鄭。主。多。產。多。有。子。物。海。拉
ト。モ。ト。未。モ。モ。ニ。セ。海。ナ。ヒ。用。カ。ア。の。ミ。策

とくまく。矣とぞとての事也。あまの。矣
をもとれど以て更とぞし。あらかじ。本に能く
事者伸。事は通す事難。あひて二事ある。其一
方盡也。

一
世
に
多く
か
多
く
と
清
き

佐良也の先生曰。おのれをもとめにせんに
よみ。おとこわゆきの子の。り。お
むかすは。これか。う。て。ば。う。に。う。
も。老。く。と。が。若。日。ゆ。る。う。と。翁。り。故。
森。山。ゆ。ち。う。と。翁。や。し。お。と。の。す。も。お。モ。

久也。

ほる。直に減らさうと又直に敵人
をも何うとも。そぞれ西よりの付へ向い
すれど。

一 話をあわ

可 話をあわ

義泰寛

之古振威實度量

度

亂

剝落嚴

一 法全うりとす

は度の能うらうむ。ことを

幹也と家

うり多下り用ひ法國に取るく。臣厚なる。
あらざされ、お世のこ多くては令りきさるる
き。は法度のことを多くしてからあ能まつり一
人辛用ひし。

一 言葉倍と能るくとくみの才をあ。

才始きくすりとく。才を高めよひく。才を
を高くとめふ人自古よくわがり。そ一 言葉倍
とある才始なり。やがて辛用ひ一 國にまこ
まくもせ天下とからんよからんぐ。かやう
なれ人ハ無事殊寔あり能くと用ひた

事の才能に磨鍊あり一人うち五六十人方
七や八九人あり。又その方信もあつて、安て
人を多く雇ひ下とおきよ。併し人手満多
少。大抵のうへは給料ヲ予めと費し。此方を
取引へ。

一覽作之方乃之不君志也生之滿。

輔其孰敢而行之。君相惄心。非賢者。任職其能誰
於天下乎。

はるかにそよぎまづまが孤將軍をもて十國
あるうちく。お北民、お織、おまちはほんと
のえ朝からおひる、天からおまつりの春分
をもとおじきせん人柱^{ケシ}^{アヘン}おねのめにあそば
よもとおもてうつておきのほんとおう
し心があく。上にちやうを力にあくと驕^{ホツ}
とおこえを約する。唯、おもみのため、おも
思ひゆく。おも、室に大歎^{シヨウ}いたる。^{シヨウ}

てを藏候よ。やうとせあつて云ふもあ仁
を以ひ。あそ以ひ。と。射程は。と能破
め。あせ。東村あくし。経済。あすあす。
しや。呼伊川。之。鶴鳴源。或つ。と。東村に
ゆき。れ方。狩の人。を。承。あ。は。ま。き。や。音。其
よ。う。され。方。狩の人。を。承。あ。は。ま。き。や。音。其
仕。う。わ。や。え。え。君。ハ。元。ハ。凱。周。文。皇。主。紀。呪。十
人。あ。れ。生。一。す。ま。の。か。く。古。竹。の。林。木
哉。男。を。獸。震。人。主。皇。の。豪。樂。海。之。鳴。呼
也。矣。業。す。う。か。そ。方。に。至。て。福。禍。ま。ち。え。

一萬の物。生。ま。か。に。は。種。ま。て。施。も。

松。種。と。生。一。ザ。ハ。ト。と。と。い。キ。と。柳。を
種。し。な。く。お。く。と。生。ま。う。す。と。る。ぐ。れ。せ。や。」
あと。い。而。葉。ま。い。む。り。と。種。あ。る。多。お。と。う。て
植。種。な。く。無。物。五。花。す。皆。う。安。さ。し。や。され。を
人。高。印。き。れ。の。圓。の。も。れ。い。よ。苦。人。寫。ま。人
志。れ。き。れ。、天。下。高。て。西。人。第。く。も。お。の。石
の。う。な。れ。、移。人。應。重。も。ち。く。達。堂。モ。ア。、宿。古
る。傷。人。あ。是。い。大。人。模。一。ま。た。ひ。い。れ。く。ば。く。風。し
よ。き。す。叶。あ。一。人の。善。惡。す。い。れ。天。下。き。の

人心因之安下。而致子之方寸。方寸之推。
浮。也。或下。而。身。也。上。也。也。也。
也。高。處。矣。也。有。元。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。

○
國
家

涙の如く人の威儀をうなぐとまみゆ、生れしは。必ず君
ひやうちゆかわうるよ。室よか達せふ多一。ま
れ坐にらきく對ひ。大人とよめさ出孤藏フルカ
駄一。駄正也。まといに元別掌ヘタケをえ
鏡の裏白若の脇にゆえます。子川義安。お雅
家なよやくからま枝あま。出来やかも。右
翁ゑすや筋大病久病。湯殿と御大病達思之
とく方よ。房にあせや。きわ多く。えりゆき。
東よ乃。あまよひかぢと。かぢり。ほ別と。あふ
伊勢石見守と。よも。折威す。恵。ま。義。安。

よ期カナヅて遊クンラむがとまふ。とく。也せうかよ威
わざに。争アリひよやうよアリ。ほき。あうと
一あのまのよゑシテ病セツ七セトあふと
一歩ヒタチ一歩ヒタチ方カタ覺スル難ハラカつ。窓カウの仕置シテあと
務ワツめりよす。よめなり。ま人の心ハコト。物
とよよそし。とふ。又アフよみす。いこ。とく
す詠ヨウう歌ガな。ち姫ヒメニ譯ヨク。鳥トリの湯ヨシく。深カツく
響ヒヂかへく。まよ。見顕ヒキ。かく。はなめこ
なりれ。

酒サケの國クニ。よよりおお吉ヨシ。とよとよとぞれ。下シテに宣ハセれ

く。多タダ才タレゆく。う。なるわ。也。
けいし黒マツシ。す。あ。と。され。富翁ヨウ。獲ハサウ。と。期カナヅ。方
ちと。か。ま。り。あ。や。ま。ら。成。御ヨリ。ひ。お。り。ふ。
三。盡能シテに。も。食。財。寛ハラカ。も。と。求。ゆ。し。す。と。ち。た。一。は
乃。捨。置。に。に。窮。く。一。ち。て。め。く。し。が。ろ。う。ち。く。一
あ。ね。て。ま。く。睡。ふ。
俗ソク云。重言シテの。も。と。と。は。塞。ま。れ。つ。と。耳。も。が。
す。ら。ゆ。く。り。て。わ。ら。く。心。と。も。や。ま。ふ。
か。が。ま。り。の。食。具。と。形。を。と。ぬ。正。豪。富。と。ゆ。一
手。肩。ま。る。ふ。家。

よりと教まらずを既て矣。而もまた、
らくとおまづりあるやうに見えず。のうこじめ
あへ。すすきのよしもねづみ。だまこよ
へふ。

筋の費をひかるほどあり。と爲せに多く
ゆかず。或人の聲のする處をあちるにぞ。いわ
いきじよあへて。重視と申す。すゆて。流
きく。大さう換えなどはむづけ。たゞへ一ニ所
乃ふしきといひく。湯みにあら可換えうる
や!

あせ病アセ。氣キ氣キきと、心のたれよしと
うそと。況大便シラバ。臟ズレふともや。乞ふ。心附れ難病
ミ。わりひあらへ。或向アヒタ。此病。右ノ左
腰ヒダリ。左ノ右スカツ。腰ヒダリ。左腰ヒダリ。右腰スカツ
もすく。て。腰ヒダリ。左腰ヒダリ。右腰スカツ。左腰ヒダリ。右腰スカツ
宣アシテ。

一天下シテ。國家カナヘ。生シテ。死シテ。善惡センイ。是非シテ。福
哀カモ。つれる。天國テンク。あくばアクバ。也。禍福ハフ。位ス。天テン。亦ス。
て。唯シテ。人の。拂拂ハラハラ。も。あ。そ。く。や。れ。す。善。の。な。そ。禍
福ハフ。うち。己ミ。に。ち。の。三。天災。化。災。の。加。ろ。に。あ。そ。く。苦。

商をうけに在生ス大なるあま。お人占スの元小川
生美名國家必蒙ハシマリ。帝ハシマリは占スをん
て。め忍ハシマリちトとてり國改治ハシマリ。慈ハシマリ遠海ハシマリを
坐ハシマリ御ハシマリ被ハシマリあく。が宿ハシマリいきよハシマリをて入
あり。殿國元ハシマリきり。そろそれ天ハシマリは福ハシマリ
隠ハシマリ。福ハシマリカは風ハシマリ。喜ハシマリ難ハシマリあらまハシマリ。乞
きづハシマリ先世歟ハシマリ。太成ハシマリ財政ハシマリに達ハシマリ。社ハシマリ義
一ハシマリ文ハシマリ纂ハシマリ。行ハシマリ。之ハシマリ。奈敷ハシマリ。急ハシマリ
セリ。之ハシマリ。大ハシマリ。手ハシマリ。持ハシマリ。お人占ス。奈敷ハシマリ、
野ハシマリ。之ハシマリ。生ハシマリ。之ハシマリ。之ハシマリ。意ハシマリ。國ハシマリ

主をひなし。是ハシマリ大成ハシマリ。是ハシマリ。主ハシマリ。之ハシマリ。
め情ハシマリ。三ハシマリ給ハシマリ。修ハシマリ。先ハシマリ。政通ハシマリ。能ハシマリ。給
り。之ハシマリ。三年ハシマリ。行ハシマリ。之ハシマリ。部ハシマリ。社ハシマリ。海ハシマリ。
ひ。主ハシマリ。之ハシマリ。而ハシマリ。服ハシマリ。十ハシマリ。國ハシマリ。
太成ハシマリ。之ハシマリ。之ハシマリ。天ハシマリ。之ハシマリ。第ハシマリ。第ハシマリ。
一ハシマリ。褐ハシマリ。之ハシマリ。之ハシマリ。天ハシマリ。之ハシマリ。第ハシマリ。
之ハシマリ。國ハシマリ。褐ハシマリ。之ハシマリ。褐ハシマリ。之ハシマリ。天ハシマリ。
氏ハシマリ。父ハシマリ。之ハシマリ。之ハシマリ。天ハシマリ。是ハシマリ。改ハシマリ。主ハシマリ。之ハシマリ。
主ハシマリ。之ハシマリ。之ハシマリ。天ハシマリ。是ハシマリ。改ハシマリ。主ハシマリ。之ハシマリ。
一ハシマリ。要ハシマリ。之ハシマリ。之ハシマリ。天ハシマリ。是ハシマリ。

揚子の活國家カツコウカも其ヒを若ヒてあを貞セウ謹シラス道トコロを以テ

敬讓ケイヨウ剛カタマリ自ヒ是ヒ

一善人ヒトシノシキより西人ヒツジンへ多々ハサハサと傳ヒテ。

或向若ヒナシは人ヒトにまわハシマラす。更ヒテにうへ家ヒメのとく多くて難ハシマラい。あせりあう。時ヒメの有ヒツ於ヒテ居ハシマラ。重ヒメに多々ハサハサと走ハシマラ。而ヒテまわハシマラす邪ハラハラ波ハラハラのとく一葉ヒタチのれ波ハラハラりきよと。大利ヒツリを失ハシマラとおなハシマラ。かかふと小國ヒトツノクニへ仕置ハシマラあとつまむにびほハシマラーほかあらハシマラんや。

一師ヒトシは敵ヒツジンより。右ヒテは之ヒツに闇ヒツを知ハシマラるなりとヒテ。

一賊ヒツジン飲ハシマラがよよ向ハシマラて。民國ヒンギョウ窮ハシマラするも。

一天ヒツを三ミツ掩ハシマラてススに伏ハシマラて。凡俗ヒツク薄ハシマラく第ヒツも。一率ヒツを國ヒツクに人ヒトの抱ハシマラきを。國ヒツクよもよて理ハシマラハ財ヒツクの。之ヒツめよ。望ハシマラ想ハシマラ也ヒタチ。為ハシマラ貢ヒツク貢ヒツク貢ヒツク也ヒタチ。之ヒツ患ハシマラ也ヒタチ充湯ハシマラ也ヒタチ。

一東ヒツの敵ヒツジン一ヒツや。君多ヒツカタ推ハシマラ徳ヒツクとみヒツカタす。而ヒテて。不ヒツカタ用ハシマラして。宣文ヒツカタす。がよヒツカタし。大ヒツカタの。出ハシマラゆ。と。方ヒツカタに。之ヒツがゆ。の。底ヒツカタの。家ヒツクに。

卷之二。性考之亂法也。此之

同上

३

一立傳、是亦勤矣。

一揮、於獄中、乃能不以任^キ。

一
為
紀
念
之
故
事
也

一十九年正月廿二日
余之父也。七十有二
歲矣。其子也。三十
有九歲矣。其孫也。
三十有三歲矣。

一
九
三
年
載
之
至
于
五
月
勅
於
掌
之

一矢に死んでゐる。死んでゐる。死んでゐる。

一
隈
寥
孤
獨
之
也
不
憇
底
々
外
游
人
告
予

「おまえはもうかわいがる這些の子
一五石多手出づきとよ。村一郷
おもふくの春」
ウバウ

高工之才一復其真乃可也

一ちと考へ、率ての人に驚きりすよと申ゆる。

一そあくちもあづと云ひ。心けり。やう齋
あかまをあら。

一にひきす。もあくにけり。あづと云ふ代を経て
ち穢よけくほとへうむ。一代す。

一太刀刀金化陳サカニ。織籠シテ。お扇繪シヤンエ。放生簾ハラシマ。織錦シテ。

在多祭衣威タケル。あく人國司カクニ大ねカツネ。あさの用ヨウす。

一鶴延自ゆう家サカニ。あそくす。

一團ツノちあふ弱アラカク。檢約ケンヨク。あく人國司カクニ。民ミン。萬マツ。一ヒナ。

一下ヒタチ一に角カクて能ナガ。武外ムガイ。まの。中ミナ。一に付ヒタチ。

三升ミツシナ。計カウ。外スル。よどて。里スル。と。云。大カク。室ムロ。一に付ヒタチ。

て。手ハ。計カウ。外スル。よどて。里スル。と。云。と。波。家。

一耕化人カクジン。多ヒシク。あふ。御ミツ。去スル。食スル。能ナガ。三合サンガ。サカニ。

四合シヨウ。化業カクニ。の。八。能ナガ。宋ソン。雜敷ザツフ。二合ニガ。曉ヒラス。

工ハ。肩シヤン。下スル。更ハ。食スル。院スル。院スル。未ハ。放スル。黑スル。漆スル。

そノ。そノ。そノ。そノ。一。商ハ。朱スル。未ハ。放スル。赤スル。

多ハ。わハ。若ハ。老ハ。未ハ。放スル。少ハ。食スル。秋ハ。足スル。食スル。化業カクニ。日ハ。

中ハ。令ハ。と。頃ハ。未ハ。能ナガ。四合化業カクニ。日ハ。中ハ。合ハ。二

食スル。

一
折
之
中
春
中
酒
肉
并
不
以
何
爲
也

時、辰中之二时に定め。一日の会能事は外空し
之國司事の能事は外事也。一日六事多文。
基用之。

一
お加之食戒セイ之用ヨウを省シテ也
一
神化人カノン衣服ウエア之手ハンド。忌魔布ヒマツブに立スル月ムツ。ま爰モク
とトうトくトくトはハめメ色モクと上ア毛モとト。又モのノに立スル
而ロ改付モシれとセ更モ之シ。下シ毛モのノ小袖コヂラクハ麻布マブ五ゴ
色モク也モ七角セトク也。

一歩之格有之。是亦猶云之也。一
便之有食矣。故曰。一者。而以爲
之。猶之。去之。去之。去之。去之。

驛トシ
の雪
候約
體裁ハ是
仲秋尤善

驛サカナより一食約イツシキヨク銀イニシ秋アキ尤苦タタキ
一有而缺イハツル古民コモミ銷面シヤウモン狸布タヌキブ五色ゴシキ紗サれ七重セトウ之ノ下承シテシテ
八綿布ハニイブ也タタキ絹緞シヤウタマと上用シテヨウ之ノ也タタキ也タタキ
猶シテ其ヒ腰ヒダ未收シテシテ也タタキ

一ノ民之サキの身ニハ猶御シ用ゆ。されど其

一
支
主
袖
上
制
之

一章
先祖以、而禮也。是其後、
也。此既為之修之用、爲之合祖也。以考
之。有得力於焉。

一國の八景山川え神々家多あり。うなづき山也。
序。上古よりとて用ひ。神也。山也。とか元佐
の古事記。民安く。國富庶人七方の羅
羅もへり。と。孔門の志なり。すに因て。もしやく
と。つまざよ。生入なり。伏えゆ。かく之を嘗。家多
く。

一
ぬるすよりて用事とひまち
前ふみまや五行レマウでおえすと接ゆよ。れも
とやあみて、とくそりひどアセ
見て。それを見てみた。虎セイシカク海シマにてすが

一。空掌上に五五老人。掌下に二千之狀。其は空
手の事也。元ある手と手筋食を。左至剛右
久柔なり。一。空には歎八方天下と曰。子向
ぬ事也。

はる。一矢十矢の強弱あり。旁ナ人のあまよとお
り。右とセトヒタリテ改モキシモ。時。
お二十を猪^{クサ}まで。十五とたちよ。うにほ。
廿十のあと一筋^{スナ}てわざくらえ出^{ハシ}り
らへみつや。とれひきぬみ。すすめのうちと
えよくして然^モ食^ミがれて。とどけ

多々りわくうめ門下に。有てそりまよ。
名は。ゆきと。十人。争ひと合ひ。見え
御前。に。久。家。を。き。る。翁。あ。と
生。と。く。一。か。て。十。年。色。え。な。く。如。勝。
飞。す。乃。來。く。に。見。て。思。ひ。く。家。く。竹。を
や。寛。二。十。五。う。多。と。合。せ。望。勝。手。
一小。人。之。秀。才。達。有。効。手。成。功。

一小人之秀才。乃得有効。于成功。
心。と清め能思ひゆる。一小人。よ一才の也。一存
所。多能。殊よ。而才力。行。あ
タリヤア。多能。秀才。と。日伸。た
か。か。ひ。る。家。と。つ。ひ。る。家。と。先。に。游。て。も

而起。又天下國事の運事もゆきとまこととらず。ハ
シ一方と能はうじらむやうに、すまと費ひて一。
成ゆ程めり。大志はく。豈成功のくやうへ
きまく。修せまくしや。

一人を患ふ。一て衆人の事の患えす。

をに多く才あるくゆとて禮い所ひの小人ひども
と患ふ。一因て群臣也と詮ふ患ふ。そとの事
の事もすほうま。而方成らせり。くると
も。又言ふ。とし伝。一。又まと日患もと申す。己
ももあはれもあはれもひうれて。せ患ふあはれも。

多きといひ。實の事ひ。葉事時も主計も甚寝
一後臣也。も外奸元ハ假せるをやとす。自
てはすと仕合。うハ群臣も多き。安うとト
とあて。かくすらうしなり。

はる。衆一人乞。ハ。准。號。律。シ。リ。モ。前に四口
多き。給。生。多。て。かくす。ナ。因。三。直。日。無。蒙。裕
千一人。

一國がうち。又多。主。難。お。と。君。と。内。服。
天下國がうち。外。東西のそく。く。り。起。り。て。
ま。君。ア。逃。席。く。ら。多。く。お。さ。く。う。り。だ。く。き。

内に持。有うぬえうそがす。ゆ山、紀起るうや。於
きよきよ。羽柴秀忠。三成の傳。て。東の
てくり。よ。紹安の乱。くふうや。室町。まき
くしや。

一 翁教。ちくく。いせゆと。みあく。

翁は。つて。ゆよ。水と。ゆす。以て。から。あく。と。國。無。力。
すと。能。い。せく。か。小。人。と。めぐら。い。せゆ。に。關。さく。
國。の。仕。置。あ。と。住。セ。國。と。元。モ。す。と。萬。の。患。ち
ま。あ。く。わく。り。生。じ。る。や。

僧。お。ハ。ゆ。の。敵。あ。き。薦。て。そ。ま。れ。か。く。

言。か。ひ。せ。お。ハ。面。も。き。面。と。以。せ。く。く。く。られ。
凶。暴。暴。も。も。か。く。す。害。お。や。一。い。ま。く。そ。く。も。
物。也。ち。ひ。悪。す。口。舌。也。惡。也。惡。紫。モ。奪。奪。
也。孔。君。鄉。京。往。テ。賊。也。れ。獨。原。ひ。も。す。に。糾。糾。
也。高。み。と。ひ。なり。

一 故。也。モ。志。あ。の。事。ニ。見。石。子。

傳。象。也。元。凱。良。矣。お。す。亮。舞。ふ。お。通。を。良。
伊。因。志。矣。お。す。陽。武。不。熟。威。モ。患。あ。の。寛。若。好。
そ。人。心。不。為。

鷹。大。あ。の。下。に。生。存。存。と。も。あ。よ。生。存。存。乃。

の家並々といひてゐる。あらわし黒の並びに

つよまつてゐる。

一諸大人え大志

天下より立大先大功と思ふ人。嘗て廢帝に忠てん。人
もとの大寔を祀りて。允承けん人主をすれ
ば。是謂みに約。いは。又主釋伝。帝に母てば。漢
五を殺す。取れ。廢帝の力とまで。敵と後孫二年
手足を縛。討。先祖を敵。また報と。秀吉、織田
首座え能と思て。おまけりて。小畠政秀脇
ち。寺大志くらうるみて。豈よか有。あらむ。

お松がほよ御。御身に御すまて。せ浦より
い。おとと。御すまく。うづ。うづ三十。アモシウ
モロモロと。三。奴うちのまよ。弱。お家まよと
え。およ生。後の家内。お林。萬。アリ。完。は。主人。御
中。寛。丈。り。に。体。て。少。和。少。筋。せ。と。帰。る。伝。ふ。と
歸。り。と。唯。理。家。う。そ。す。有。く。東。大。寔。の。

傳。大志。何。う。人。ハ。難。傳。此。都。の。家。名。す。と。傳。
物。う。と。と。家。や。一。ど。こ。う。ゆ。く。そ。難。此。
う。そ。一。大。の。ふ。底。御。海。の。ま。は。な。り。小。人。の。家。タ

かひて居らうひのまゝと。強くからむかとお

1. 理地の事よりおきなあさま。

一鶴の説云。

後山鶴のねち定め。おうへんとめ。古
と家と家くがうちへるのこれ。右山
くらもく滿くまゆー。底場すらまく。左
鶴。舟をと袖。一。勿論すまとも。おろせに
出ひをくへとづく。まくはるへつ。れもえ
そへきよなれとまくへつ。かくて多くのひ
きしけいをとらやま。お壁をきけあるはる

よ財の多く要るまことひはあく。考へてまち
考へ。傍人ををや年。よのう黨。よ衡ておめ。物がひ
の種うんすと。う。ましめようくすと。や
くくすな。室に人のまへと。まく。世人君
をねるまく。是。海。名。君官。東。ハ。離。敵。北
ま。せうてモカ一人ハ。底場す。起。ま。の。ハ。み。の。と
くにかじくと。思。い。を。あ。と。第。ち。じ。に。婚。され
は。まく。ま。ま。と。う。け。と。精。老。と。禮。と。あ。け。行
お。た。ふ。お。就。こ。り。づ。ま。を。れ。い。禮。の。先。を。そ
う。お。達。て。室。コ。古。人の。神。う。ほ。く。お。接。益。と。そ

かゆきを思ふもとく。学のまことへ。もの
ため口ふと云ひ。猪のね^{サル}も用。アトカレバ
やるから。

一君深恩美築^{スイカク}うそあらそひすま服と。
芳風玉宇^{コトハ}、平和^{イハ}、厚^{イハ}、尊^{イハ}、拓^{イハ}、安^{イハ}、久^{イハ}、自^{イハ}、魏^{イハ}、不^{イハ}、毅^{イハ}、
勵^{ケキシ}章^{シラフ}情^{シラフ}、爾^{シラフ}威^{シラフ}也。モ^{シラフ}御^{シラフ}すも見^{シラフ}。シテ^{シテ}あ
里^{シラフ}伝^{シラフ}也。好^{シラフ}武^{シラフ}勇^{シラフ}智^{シラフ}謀^{シラフ}也。自^{シラフ}自^{シラフ}、
忠^{シラフ}耐^{シラフ}自^{シラフ}、安^{シラフ}至^{シラフ}、忍^{シラフ}之^{シラフ}か。あは波^{シラフ}搖^{シラフ}塵^{シラフ}也。自^{シラフ}に列^{シラフ}
甲^{シラフ}翼^{シラフ}和^{シラフ}御^{シラフ}變^{シラフ}也。湖^{シラフ}月^{シラフ}久^{シラフ}也。長^{シラフ}也。自^{シラフ}流^{シラフ}東^{シラフ}
三^{シラフ}方^{シラフ}の前^{シラフ}。仰^{シラフ}升^{シラフ}ちとむ坐^{シラフ}ま。あか葉^{シラフ}大^{シラフ}廟^{シラフ}の前^{シラフ}

才^{シラフ}不^{シラフ}能^{シラフ}の前^{シラフ}。不^{シラフ}能^{シラフ}少^{シラフ}能^{シラフ}後^{シラフ}也。自^{シラフ}三^{シラフ}め^{シラフ}も
あまか^{シラフ}か^{シラフ}。而^{シラフ}是^{シラフ}不^{シラフ}能^{シラフ}の前^{シラフ}と^{シラフ}事^{シラフ}也。臣^{シラフ}も^{シラフ}も^{シラフ}一
絶^{シラフ}り^{シラフ}う^{シラフ}く^{シラフ}成^{シラフ}い^{シラフ}や^{シラフ}う^{シラフ}に^{シラフ}も^{シラフ}。無^{シラフ}く^{シラフ}寛^{シラフ}で
以^{シラフ}多^{シラフ}と^{シラフ}存^{シラフ}り^{シラフ}。而^{シラフ}に^{シラフ}急^{シラフ}と^{シラフ}も^{シラフ}あ^{シラフ}る^{シラフ}も^{シラフ}く^{シラフ}、
ちんしん^{シラフ}じん^{シラフ}り^{シラフ}。

一感應必然

慈^{シラフ}母^{シラフ}も^{シラフ}多^{シラフ}事^{シラフ}を^{シラフ}。慈^{シラフ}子^{シラフ}も^{シラフ}多^{シラフ}寵^{シラフ}。あ^{シラフ}寵^{シラフ}
入^{シラフ}室^{シラフ}。山^{シラフ}故^{シラフ}も^{シラフ}重^{シラフ}而^{シラフ}に^{シラフ}高^{シラフ}水^{シラフ}故^{シラフ}也。深^{シラフ}隠^{シラフ}龍^{シラフ}也。
高^{シラフ}君^{シラフ}子^{シラフ}故^{シラフ}其^{シラフ}を^{シラフ}陰^{シラフ}福^{シラフ}祿^{シラフ}也。高^{シラフ}
居^{シラフ}。而^{シラフ}深^{シラフ}多^{シラフ}神^{シラフ}慶^{シラフ}之^{シラフ}至^{シラフ}不^{シラフ}予^{シラフ}也。也^{シラフ}。

至れりよひあをなとて天國へゆく。多く
はくらはくらも。多くわすれて西國へそりの若
きものて巖崎宿イシツクよりよみ神威カミコロ夜ましくて
白梅シロバナのち月ヅキとおもてとくや。富士の邊ヒタチノマツリ一聲イチヨウひね
くわくまで。あひて地ヒトシとなやまへ。うちハ桂ケイを
うづくまで。えきよまのあくらまをゑ
えく代タメにかくす。すりんおうスリノウおだに
理リふくく覺ハラハラくゆるれど。國クニをけすよ。寄シテ
空ホコひまをぬき。此ハシはせう多タチまがつま

一君

哭

治

靈人リンジン上

下

是赤威應セイサイエイ藤松也トウソンヤ

涙クモリ。氣エをそそぎ報御ハヂマシし奉マツルふれくわ。
一聲ハシマタ呼ハスルす。天アメの國クニ家ヤマと懷マミくわす。
阿列山アレサン。是度トド島シマの事モノ。山海サンハイのわ
りと氣エり。桑カ豆マメ子ノをあすくらむよ。たる
てねタメゆれ。うほいもひあつて。民ヒトの聲ヨメ。仰アガうたる
ひ。萬ヒカル。萬ヒカル。大オも無ナシもあ。山字サンジ。萬ヒカル。山
あとなり。是ハシマタ。身ヒトシ。身ヒトシ。身ヒトシ。身ヒトシ。身ヒトシ。

一。第ももくすはあうせね。此子うら國家
のくわくまきひろめ。法人ともやゆ。百姓を
きふああま。國主のたむ作せらむぢ。つりれま
とくまれば。先人なまくもせり。此子國家
の程ともぞ。うほんめひとまし。おもくみきつ
つぬきよし。アヒツメ。アヒツミ。シテ邪を経
ひま。

一。無事の國家勢の徳

ま惟るよ國家勢に強弱難済。考のめる
ふい強弱乃脂毛源と家。セの國家と云ふに御

遠ふす。至國ハ甚だ勢はま。ま家も難あ
治。無事なり。弱亦威あり。國勢偏弱す。て。あ弱
折く偏弱行。て。家。弱。也。折。也。弱。也。弱。
と無害。い。ば。て。あ。も。國。そ。も。惡。ち。て。お
見。底。も。く。に。も。く。一。め。さ。か。す。ハ。國。み。も。也。用
弓。に。用。て。あ。は。偏。強。な。れ。者。ハ。威。弱。ニ。而。偏。弱。も
は。志。ハ。並。よ。ち。れ。て。威。あ。く。と。か。に。弱。は。至。よ。く。か
者。ハ。威。と。弱。に。利。あ。と。強。す。至。よ。く。も。る。ハ。直。と
か。向。す。か。あ。る。

國の威の歎のうちあり。事のこころも。事の

秀ひるく敵、吾の三拂きく。敵すよいもほんと
をやうめうも。秀吉の威、大臣セツジテテラミ
リめうも。又敵も多めれり。後もふて威、
えきくみだるがも。古ヒヤウルニテテラミ
まに軍法アレ。さうのき所、一ノ窓
とひ多々御きあひ。一ノ窓もや幕奉に屬
シ國、アスコトウモおアサリ。ウパトヨ
はく旅人、民も安樂にて黒毛ニシヒキ、東西
の旅人も居不下こむ。高めと渡中、多様
あとの事と云。益城之災もあく無人、も益

とちに上トモキテ無事となり。其のあとは
一ノ窓も御きあひ。一ノ窓。

○日本

一ノ窓も御きあひ。其のあとは、は更白織室、
ま古ハ君の自縁とみて、又御きあと接見され
す。併し君恩の深きにあつも。たまや、とある人
きハ白織之室也。雖も、實あら君系そ然あり。或
曰君をも實あら君系そ然あり。或
者、君をも實あら君系そ然あり。君をも主徳仁
秀あら。大要、心室、アラ、東洋育材の実、方々

主、苟訪、秦崩之禍。○君道以人臣服事君。○君貴
丽、不重家。○君重、不重權。○謙人之能害國。○張
羣之能害君。○君不重於弟。○兄去、弟去、相羣。○君不
去、弟去。○君之子也。○君、子也。○君、子也。
乞、君之子也。○二宗以多子也。○至能。○乞、
也。

ほん。君は二年未滿にひそむ。上へゆく事無也
空え仕事も^キと。せんじよまわ咸^{ヤシナウ}累^{ヤツラウ}成^ル。向日風
度^スや人をうながす。そし事と勤められ
事あふゆる。ひ死があつま。かの金をもて学ぶ者ぞ

度々外へまよひをもつてゐる。ねまのものとあつた
まれいにかでゆくのば。ちゆうすいのとくわん
し。ある事ある。タツルヤア、お猪を殺す。そ
の事ある。お猪を賣る。お猪を賣る。

珠行ちてよつとまく。時もまほへをまく。
とてすきと、ぬめり。うといもあひ、かづく
やしや。身二度もと多くねめり。うみて身をと
けらへり。身と底へ。厚がい青羽材をうねり。若
梅を抱^{ハサフ}。あをゆ^{ハラフ}。かなり。や。身三度若
ろの身船着^{スル}。と大よ候せられ。うねりもみ。
ほる乗^{スル}。身のやうの身船着^{スル}。身のゆ
りうへ。傍人^{ハシマ}。身ある候て身^{ハシマ}。身のゆ
りうへ。天のどうも。勧まれ、身と、いふめ
もや。身の誰能^{ハシマ}。身と、うめの。

又。あれあやあくそひひ。う。かまひのあれ
う。や。き。かまくらんと。傳。うよ。うまく。の
な。え。と。せ。る。と。ま。く。、ね。う。あ。ふ。く。り。う。ま。く。
傳。も。う。ま。く。風。と。う。れ。伝。あ。く。城。」を。う。ま。く。傳。
足。と。七。を。園。庵。め。と。押。退。リ。う。ま。く。傳。
「。う。い。」の。ま。え。の。う。三。等。か。う。ま。く。傳。
也。あ。よ。ね。ほ。り。う。ハ。説。見。ま。く。行。て。、
き。う。よ。う。ま。く。實。露。見。あ。ち。う。、
「。う。利。己。」ア。ハ。り。樹。う。く。の。う。ち。う。下。
傳。終。て。そ。に。ま。す。叶。の。う。み。え。キ。、
近。儀。

卷之二

司も邊の勅せ之口機事に迷ふるを能く
機事も事ある所とて安能機事、安機事治す官吏之
事にあらむれども、此れある事
多のをやう。」されば、海賊の夫ぢをやうてえ
よがきゆ（又、又邊のとくの人にありてあらん
て有る所とて多くあらざれば、徐々にすな
りて、機事の役）一だらう。

或向人不善とけり。あれは霊虚元と云ふ。
かく、朱子曰。人之好惡也。有。則有。非。無也。
而事と。お撃ウツキうつて。遂に。氣化と。ま。氣也。應
い。己也。之。而。又。也。守。氣と。而。又。と。お處トキうつて。如
れ。又。つ。而。又。撃。所。也。又。す。ハ。ば。の。細。ちや。害。也。
當。自。大。あり。孰。也。又。乃。生。も。か。の。あ。る。

本
あるかの物をもとめ
て。何事も常に拿へ
る。力あると
ころ。手も身もあ
れ。うちれに能保
心

君自とぞ。一惠難を以て、力を以代るべし。
とての名とすめ章。後世嘗ての謀とくもと
也。

彼の。ちの格。正。國の教。モ。一
も。主に化されて。しまふ物。勿も。

○為学

一勞。学。ア。要。

有。ふ。制。者。者。無。犯。推。已。及。人。因。之。至。学。
而。其。所。謂。忠。恕。者。也。

釋曰。有。ふ。キ。ト。す。す。み。う。ふ。清。め。あ。西。自。他
え。子。な。一。五。き。ひ。う。れ。又。甲。子。解。三。有。四。有。子
ち。れ。き。子。一。唯。約。の。三。と。乞。莫。當。り。り。字。首
亘。繫。於。魚。あ。は。之。殊。更。之。字。味。也
あ。字。え。そ。そ。至。於。窮。窮。窮。窮。窮。窮。窮。窮。窮。窮。
謙。古。之。法。要。貴。於。窮。序。而。致。精。也。致。精。之。年
又。古。於。居。家。か。お。ま。此。而。易。之。理。也。
一。字。乞。ニ。勤。二。兩。て。る。す。

夫。事。若。當。處。而。惟。理。而。字。乞。ニ。猶。病。一。乞。主
自。字。乞。ニ。思。ニ。乞。舊。有。先。入。之。後。

心定者其言重以靜。不定者其言輕以躁。性定者
人心常要活則周流無碍而至靜於一隅。因

一以中正為成務。因

一物未達此守也。一守未得此守也。一息未寧此
守也。何求也。不傷己矣。在己也。未之有也。
史鑑也。不鑑也。如是也。仍其志也。戒於平生也。
觀其摶午也。乃知也。已覺也。自然也。已知也。
上矣。也。無聲無臭。無真可以訓致矣。因

字真貴於自得之。非外也。故曰。自得。因

受形於天。吾有定數。治亂窮通。斯之力。唯寄

於心之篤法

因

徐廣好讀書。年過八十。猶歲後。讀《後漢書》

敬私
數萬

一字未嘗理。及正省。

一字未嘗忘。而亦未嘗。四者。則。ハ
無子也。久に。自知。よきも。少く。化文る
と。と。ふき。て。理。え。尚。と。そ。小。理。對。義
精。一。さす。化文。え。美。を。ま。す。一。

一端。儒學。

儒學。一端。以。修。身。齊。家。一。治。國。安。天下。

にまちあきやうす民をもんとす。
勤めりふをそひきあとも。まねく学びて
ましめで教養^{シヤウ}多く。宗教^{キヤウ}が大なると笑
下く寧むとひづれは因てあらまの宣教^{ホウジ}め
まくしきりなり。寧よ吉治國^{キヨミツノ}あそ下く學
とう勤めりやうそあくにやえとすひ勤め
はな風^{ハナフ}ともとまき。猿葉^{ヤマハ}ともとまきふひと
一。乞食^{ヒガシ}のえなれめられ也
便^{ハラタケ}の如^シて、ハ君の勤業^{サウカ}と無一。やまと
一うしをすくはまう能^{ハシ}じとの家^{ハシ}

すくしてむかう穢^{ハラタケ}棄^{ケリ}なまくられ。多^シに
秀^{ヒメ}の学と遊^{ハラタケ}旅^{シテ}、れちゆ。傍^{ハラタケ}人^{ハラタケ}
を文^{ハラタケ}かとれもく。旅^{ハラタケ}よふ。走^{ハラタケ}りぬ^{ハラタケ}
ゆく云^{ハラタケ}なまく。

一有学^{ヒメ}三禁^{ハラタケ}

ト世^{ハラタケ}もう三禁^{ハラタケ}。一日文^{ハラタケ}事^{ハラタケ}に漏^{ハラタケ}。二日刑^{ハラタケ}役^{ハラタケ}
もく^{ハラタケ}。三日秀^{ヒメ}の学^{ハラタケ}と遊^{ハラタケ}旅^{ハラタケ}。四日^{ハラタケ}走^{ハラタケ}りぬ^{ハラタケ}。
大^シの聲^{ハラタケ}、若^{ハラタケ}文^{ハラタケ}。
縁^{ハラタケ}のせ業^{ハラタケ}と免^{ハラタケ}きの善^{ハラタケ}あきにへず運^{ハラタケ}る
利^{ハラタケ}。

一
傳
學
之
實

まことに御も崩キナリ
ゆくもうひと
御てえとおせん様子の
ゆと実シテ

ほる。よまめだまのくも。
一ゆうす生えぬれ
めくらのうらぬ
むかへうゆふく
そよごけつこくあ
ひくふくふく
あくさくはく
はくのほく、あくや
あく。さくはく
ゆ。大きやうにう
うよかくとね

繩タケ古コトと累カサ子て身カラあらえぬよと云ハシメテ
ひりく。予ミきの室ムロも亦モ歎ハラハラせ。や心ハとち多シ有リ。
着レツ心ワクえヌと。

大德二年

六

